

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3090100375		
法人名	社会福祉法人 紀伊福祉会		
事業所名(ユニット名)	グループホーム てまりの里		
所在地	和歌山県和歌山市府中20番地1		
自己評価作成日	平成 25年1月29日	評価結果市町村受理日	平成25年4月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/30/1/index.php?act=on_kouhyou_det.ai.2010.022.ki-hon-tru&ki_gvosyoCd=3090100375-00&PrEfCd=30&VersiOnCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成 25年3月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、ここに居て「幸せ！」と思ってもらえるよう、心の通う温かみのあるケアに努めています。又、毎日生き生きと過ごして頂けるよう、有る感や達成感を実感していただける取り組みを、ご家族・地域の方々のご協力をいただきながら進めています。協力医療機関のバックアップのお陰で、日々の健康管理はもちろんのこと、緊急時においても、適切な対応ができ、ご利用者に喜んでもらっています。もう何件かターミナルケアも経験しましたが、全職員がご利用者の重度化に備え研鑽を積み毎日です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は利用者一人ひとりが日々の生活の中で、自分の役割を果たしながら、有る感や達成感を実感できるような環境を整えており、全ての職員が「主役は利用者である」との姿勢を堅持しつつのケア実践である。医療機関との連携も密であり、利用者の健康管理には特に注意を払い、急変時には医師・看護師の迅速な対応が可能となっている。万全の体制のもと、利用者、家族等にとって医療面での不安はない。又事業所自体が地域の一員となる事を主眼に、繋がり強化に努めており、地域の行事への積極的な参加や、事業所活動への地域住民の協力等、双方向の関係構築が実現している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有し、かつグループホーム独自の目的も合わせて実践につなげています。	事業所自体が地域社会の一員となり、利用者に応じた生活の継続を支援するという理念を事業所入口に掲げ、利用者や外部からの訪問者に明示している。管理者と職員は理念を共有し、自己点検、相互確認を行いながらケア実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域とのつながりを持てるように、地域行事・買物等に出かけ、地域の方々と交流を持ち顔なじみとなれるよう努力しています。近くに出来たサンサンセンターや自治会主催の文化まつり、県のふれあい作品展にもご家族と一緒に参加しています。	文化祭・作品展・盆踊り等の地域行事には事業所全体で家族等も含めて積極的に参加している。買物等の外出時には顔馴染みの方々と和やかな交流が実現している。又事業所が地域に向けて開催する介護相談会や研修会は地域交流の格好の場となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の方の理解や支援の方法を、地域の方々に向けた研修会を行っています。また「てまりランド」や「グループ通信」を発行して、認知症の啓発に努め地域の方々にご理解頂き、相談者には納得いくまで説明を行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ご本人、ご家族様、地域の代表者の方々、専門的立場の方々、支所長様に来所頂き、ご利用者の現状報告、サービスの実際、認知症への取り組み状況について報告や話し合いを行い、そこでの意見や要望を持ち帰り、即サービスの向上に活かしています。	2月に1回開催する運営推進会議には、利用者や家族、地域代表、知見者、市職員等が出席し、事業所の現状やサービスへの取り組み状況等について報告し話し合いを行っている。双方向の会議となるように努めると共にそこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	広報誌「てまりランド」を市町村に置いて頂いています。グループホーム独自の「グループ通信」も年4回発行し、運営推進会議には支所長に参加頂き、地域や市政の情報やアドバイスを頂戴しています。日頃からも相談し、地域行事に参加するなど、協力関係を築くように取り組んでいます。	市の支所長とは運営推進会議への出席の他、日頃から連絡を密に取り、事業所のケアサービスの内容や姿勢を積極的に伝えている。協力関係の構築による情報の共有が地域活動の深まりに繋がっており、その際に広報紙が果たす役割も大きい。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止の対象となる具体的な行為については全職員が正しく理解しており、身体拘束をしないケアを実践しています。ご利用者がお出かけになろうとされた時「どうかされましたか?」という言葉だけでも拘束の一種であるという認識でケアを行っています。玄関や居室の施錠をしない事は当然の事ととらえています。	自己点検、相互確認、内部及び外部での研修等により、代表者及び全職員が禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解しているが、実践を通して更に理解を深める努力を続けている。事業全体での取り組みの基盤には「どんな事があっても拘束は行わない」という姿勢の保持がある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者の虐待防止マニュアルがあり、職員の苑内研修や勉強会を行い、職員の日々の言動が虐待にならない様、職員間でお互いに常に原点に戻りお世話をさせて頂いているという気持ちを持ってお互いに見逃す事の無い様指摘し、虐待の危険を早期に見つけ、改善し、処遇に当たるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度の研修会に参加しています。パンフレット等を施設入口に置いています。必要にご利用者にはこの制度がある事を説明し制度が活用されるよう支援していますが、現在はまだ利用されていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書をもとに、入居時に十分に説明を行い、ご利用者様とご家族様に納得して頂いた上で安心してサービスのご利用をして頂ける様に努めています。何か問題が起こった時などは、即話し合いの場を持ち迅速に対応しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	グループホームの玄関に「ご意見箱」を設置したり運営推進会議の機会を捉え、ご利用者様やご家族様のご意見・ご要望を伺い、事業所に持ち帰り、話し合い運営に活かすようにしています。	家族等の訪問の際や、電話等での連絡時に、利用者や家族等の意見、要望を聞き取るように努めており、玄関には意見箱も備えている。又運営推進会議は外部者に意見、要望を表せる機会となっている。出された意見、要望は採否を含め検討する事で運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議に代表者、管理者は常に参加し職員の意見提案を聞いている。会議だけでなく、何かあればその都度、その都度何時でも耳を傾ける様に努め、それらの意見を運営に反映させています。	月1回の定例会議は代表者、管理者が職員の意見や提案を聞く機会となっており、日毎の申し送り時にも職員間で活発な話し合いが行われている。代表者又は管理者の決裁を通して、それらを運営に反映させており、勤務時間の見直し等が実現している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、勤務時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境、条件の整備に努めています。有休や公休も本人の希望を考慮しています。又、モチベーションを上げる環境の整備を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は外部の研修案内は回覧し、勤務時間に考慮し、研修はできる限り受けられる様に勧めています。又、希望があれば参加出来るように配慮しています。介護技術はその都度、その場で指導し、実践に生かしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流はないが、外部研修時にお互いの情報、意見交流を行っています。母体の施設の交流も時々行い、相方共、事業所の良い所を吸収し改善点は見直して、サービスの質の向上を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの契約に至る迄、ご本人やご家族の話をお伺いする機会を充分持ち、施設内の見学をして頂き、環境が変わっても以前と同じ様な生活をしていただける様に努めています。ご本人様が不安なく生活して頂ける様に信頼構築に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様に、ご利用者様の今迄の暮らしや性格等を細かくお聞きし、ご希望の生活、要望を取り入れた生活を継続し、生活の状況を細かくお知らせしたり、ご本人様が生活に慣れるまで度々来苑して頂ける様にご家族にお願いしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様や、ご家族から困っている事等を、しっかり聞き検討し、見極め、必要なサービスを提案する等適切な対応をしている。必要に応じて、他のサービスを紹介するようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の得意とされる分野の事など、長年生きて来られた、人生の経験、先輩として、色んな事を教えて頂いたり、昔から慣れ親しんだ年間の行事など、皆様とスタッフが話し合い、一緒にグループホームの行事を作り、共に参加し支えあっています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とのつながりが強いほどご利用者の生きる力も強いとの思いから、外出行事等で、ご家族様に、ご協力いただき、ご利用者を一緒に支える仲間としてお願いしています。一緒にお出かけ、一緒にお買い物、一緒に遊ぶ等していただいています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある方に葉書を出したり、お電話をしたりする支援を行ったり、訪問して下さる方には、ゆっくりと、ご利用者様と過ごしていただけるよう配慮しています。時々、馴染みの方から電話があり、お話しされていることもあります。	正月等の外泊や面会時の外出、馴染みの理美容院行き等が家族等の協力で実現している。又葉書や電話等の通信手段を用いての交流も事業所として支援している。事業所を訪問する家族や知人の方がゆっくり利用者とお過ごせる雰囲気づくりにも努めており、関係継続の支援に事業所全体で取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングに大きいテーブル3個と5人掛けのソファや3人掛けのソファ2個置いていて、ご利用者が自由にお好みのソファに移ったり一緒にお話しされる。時々、利用者間の中にスタッフも入り、きっかけを作るような支援もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	週末期をお迎えられた方々に対し、その後も、時折ご家族様がご来苑されることがあります。契約が終了しても今まで培われた関係は大切に、ご家族やご本人の経過もフォローし、相談や支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方とその方の思いや暮らし方の希望や意向をセンター方式を利用して把握に努めている。食事、入浴、趣味の事等、ご本人主体に考え行うようにしている。	部分的にセンター方式を活用しながら、利用者への支援経過を綿密に記録し、職員間で共有する事で、利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、関係者で本人の視点に立ちながら話し合いを重ねている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今まで生活されていたときに使用していた馴染みの物を持って来ていただき、そのまま利用して頂いています。今までの経験をしてきた事柄を、これからの生活に活かしていただける様に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常日頃から、おひとりお一人の食欲、顔色、活気などの状態把握や、排泄、水分量のチェック、入浴時、傷や皮膚の状態、必要であれば、バイタルチェック、異常があれば代表者や主治医に報告し指示を頂いています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画については、個別に担当者をつけ、ケアプラン会議で代表者、本人、家族、必要な関係者と話し合い、その中で出された意見やアイデアを検討し、より現状にあったものを作成している。より現状に即したということで三カ月に一回見直しているが、必要に応じて見直しをするようにしている。	介護計画作成にあたっては、本人、家族等の意向を踏えつつ、担当職員を含む全ての職員、かかりつけ医等関係者の間で検討を行い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画としている。定期及び状況に応じた随時の見直しにより介護計画は現状に即したものとなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者の日々の様子や、ケアの実践結果、小さな気づきや工夫を個人の生活記録と医療面での記録に記入し、職員間で情報を共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族の現況、その時々生まれるニーズに対応し、既存のサービスに捉われない柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいます。小規模多機能型居宅サービスをご利用の方が必要な時はグループホームで介護をしたり、体験を受け入れたりしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の専門分野の病院を把握し、主治医との連携をとり健康に暮らしていける様に支援しています。又、地域の行事に参加したり、地域のボランティアの方にも何かとご協力頂いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、かかりつけ医の希望を伺い、受診支援しています。協力医療機関からは、往診や定期受診を受け、緊急時は適切な対応をしてもらえるよう充分な関係を築いています。	かかりつけ医の選定は本人及び家族等に任せているが結果的に、事業所の提携する医療機関の利用がほとんどである。定期の通院又は往診の他緊急時には医師看護師等が迅速に対応する体制が築かれており、利用者は安心して毎日を過ごす事ができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に4回、月・火・木・土は担当の看護師さんが来所し、ご利用者様の様子変化等を見て先生に報告して下さり、適切なご指示を頂け、日々の変化があれば随時対応して下さり、ご利用者様が適切な受診や看護を受けられるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	利用者様の入退院の時、病院からのご指示やアドバイスを受けたり退院後に事業所としてできることを病院に伝える等、病院関係者との情報交換に努め、病院関係者との関係作りを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご入居された方が、重度化した場合は終末期のあり方については早い段階からご本人、ご家族様と代表者とスタッフで話し合いを行い、ご利用者のご家族様の意向をよく伺い、事業所にとってできることを十分に説明し、方針を共有し、看取りの伺い書を頂き、主治医の先生や関係者と共にチームで支援に取り組んでいます。	入居契約時に重度化や終末期に向けた方針を説明し本人や家族等の意向を確認しているが、段階毎に、本人や家族、職員、かかりつけ医等の関係者の中で話し合いを重ね、方針を共有しながら、チームで支援を続けている。昨年度には実際に看取りを行った経緯がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変や事故発生時に備え、緊急連絡体制が整っています。全職員は応急手当や、緊急時の対応の訓練を定期的に勉強し実践力を身につけており、緊急時には、即座に対応できるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、ご利用者様と一緒に地域の協力を得て避難訓練を行っています。消防署の方の指導を受け、安全に避難できる方法を全職員が身につけています。地域との協力体制も築いています。	消防署の立ち会いを受けて実施している年2回の避難訓練は全職員がマニュアルを実地に確認する機会となっており、利用者職員が共に参加する昼間及び夜間を想定しての訓練でもある。又水や食料品も備蓄している。地域との協力体制に関しては、災害時に十分に連携が取れる体制にまでは至っていない。	運営推進会議の場で地域の方々と一緒に防災対策を話し合う事により、事業所が地域の協力を必要としている事への認識が深まるため、実際に地域の方々への参加を得て、訓練内容の一層の強化が実現する事を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員は、利用者様お1人おひとりの人格の尊重とプライバシーの重要性を認識しており、排泄の失敗や着替えなど、他者に知られない配慮や声かけなどは、その方の誇りやプライバシーを傷つけない様に細心の心配りに努めています。	職員が利用者に向けて発している言葉の内容や語調等が誇りやプライバシーを損ねるものになっていないか、全職員が常に具体的に確認し合っている。個人情報の保護については、その個別性や守秘義務を十分に理解し責任ある取扱いと管理を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人様が自らの思いや希望を表したり、自己決定が出来るように声かけの時は「～しませんか?」「～はどうですか?」など、疑問符をつけて話しかけるように、本人に決定権を出して頂けるように働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の暮らしは、職員側の都合でなく、ご利用者様の体調、気持ちや、個人のペースに合わせた支援を行っています。どのように過ごしたいかというご希望にそった支援を心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月一回の理美容の方が来所し、希望があればヘアカットを受けられ、又、外出時やその日の行事等に合わせ、おしゃれをするなどの支援をしています。朝はきちんと着替えが出来ているか、整容や爪切り等も行っていきます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は皆様が献立を考え、食材の買い出しに行かれ、調理はキッチンの周囲に集り、それぞれの得意な食材の調理に参加されています。米をどぐ事から盛り付けまで行います。食後の食器洗いや食器拭きも出来る方が「私洗うわ!」と言って出来ない方の分まで洗って差し上げてます。	献立、買い出し、下ごしらえ、調理、配膳、後片付け等の一連の作業を利用者一人ひとりが持てる力を活かして行っており、職員は補佐役に徹している。利用者と職員が同じ食卓を囲んでの楽しい食事風景であり、菜園からの収穫物は雰囲気を一層盛り上げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の栄養バランスを考えた食事や、水分摂取量が1日を通じてきちんと摂れているか、毎日個人別に水分摂取量チェック表を作って記入しています。少ない方には水分をゼリー状にして召し上がって頂いています。自力摂取が困難な方に対しては、バランス飲料なども取り入れています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご利用者の方々の口腔内の汚れや臭いが生じないよう、又、病気予防の為毎日食後に一人一人の口腔状態や、ご本人の力に応じた口腔ケアを行い、清潔を保って頂くように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗や、おむつの使用を減らし、お一人お一人の力や排泄パターン、習慣を活かしてトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っています。パターンを把握すると失敗がかなり軽減されました。おむつを使用しなくてもよくなった方もいます。	排泄のチェック表には工夫を凝らし、体調の変化を読み取ると同時に、トイレ誘導の調整にも活かしている。オムツやパッドを使用する場合には根拠を明確にし、常に見直しをしながらトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医の先生の指示のもと、お通じの薬の調整を上手く排便でき、飲食物の工夫としては毎朝、ヤクルトやヨーグルト等の乳酸菌を摂取して頂き、食前体操は毎日3回必ず行ったら「の」の字書き体操をし、便秘予防に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間を決めてしまわずに、「ご利用者様が入りたいときに入って頂くように、自主性を尊重しています。又、季節により、ゆず風呂、ミカン風呂、菖蒲湯等も楽しんで頂いています。冬の寒い時や、夏の暑い日等は入浴剤を入れて気持ち良く入って頂いています。	利用者一人ひとりの希望に合わせての入浴であり、利用者によっては1日に2回の入浴もある。季節の物や入浴剤の使用により入浴が更に楽しめるものとなっている。入浴を拒みがちな利用者については、職員間で話し合い、いろいろな方法を試みながら実現に繋げている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後パジャマに着替えられた後、居室で過ごされる方もいらっしゃるし、居間に出て来られソファに座られテレビをご覧になったり、ご利用者様同士で談笑されたり、就寝前の団欒を楽しまれるなどの環境を提供しています。不眠の方にはホットミルクをお出ししたり、暫く話し相手をさせて頂くなど、安心して眠れるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お一人お一人が使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の管理、支援と症状の変化の確認に努めています。服薬介助は慎重に行い、確実に服用して頂くように、症状の変化、確認、報告に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人お一人が得意であるものがあり、料理が得意である方は食事作りに取り組みされたり、習字クラブに参加されたり、カラオケを歌われたり、野菜作りやお花を植えたり、キーボードを弾いたり、お一人お一人の生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみ事、気分転換等の支援を行い、生きる張り合いや喜びを感じられる様に努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	暖かい日には近所へ散歩に出かけたり、買い物やドライブ、文化祭りや作品展へご自分の作品を見に行ったり、又、お花見やお買い物、地域の行事にもご家族様のご協力を頂き、又、地域の方々のご協力があったはたすことが出来ました。	日常的に事業所周辺の散歩や買い出しに出掛けており、利用者、職員双方にとってストレスを発散し、気分転換を図る事ができる機会となっている。普段は行けない花見や外食、地域行事等へは利用者の希望を聞き、家族や地域のボランティアと協力しながら出掛けられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一緒にお買い物に行ったり、外出時、ご自分の財布を持っていき、ご利用者が選んだものをご自分でお金を払って頂き、お釣りを受けてるまで近くで職員が見守りをさせていただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や知人に年賀状や暑中見舞い状も、ご利用者の希望により書かれています。遠方のご家族からは定期的にお手紙が送られてきたり、返信のお手紙も書かれています。「息子さんや娘さんの声が聞きたい、話したい」と言う方には、電話をかけてお話をして頂けるように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	換気は毎朝必ず行い、エアコンの調整、空気の乾燥、湿度には十分気をつけています。共通の空間には季節の物を置く等の気配りをしています。ご利用者様にとって不快な混乱を招くような刺激がないように配慮しています。	共用の空間の五感刺激については全職員が日常的に注意を払っている。ホールにさりげなく置かれた季節の花や適度の飾り付け、使いやすい配置されたソファや椅子、傍らの新聞等はその役割を果たし、くつろぎの空間を提供している。全ての利用者が一日の内を長い時間を過ごしている事が居心地の良さのあかしである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お一人お一人が居心地がよく暮らして頂ける様、時にはスタッフがご利用者様の間を取り持ったりつなげたりしながら、良い関係を保ち、居心地がよいと思えるような居場所の工夫をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は、ご利用者様とご家族様と相談しながら使い慣れたものや好みのもをを活かして、ご本人が居心地良く生活できるような工夫をしています。昔の家族写真や、思い出の深いものを持って来て頂き、ご自分の家と変わらないような配慮をしています。	家族には本人が使い慣れた馴染みの物の持ち込みを依頼している。利用者は思い思いに、仏壇、タンス、水屋等を傍らに置いており、自宅と同じようにその人らしく過ごせる部屋となっている。家族や知人の訪問時には、飾られた写真等から昔話に花が咲く事もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活を送れるように、ご自分のものはご自分で管理していただき、出来ないことはスタッフがご本人に悟られないようにさりげなく支援するようにしています。		